

無差別・平等の医療と福祉
の実現をめざしています



船橋二和病院ホームページアドレス
https://www.futawa-hp.jp



船 橋 二 和 病 院
船橋二和病院健康友の会
〒274-0805
千葉県船橋市二和東5-1-1
TEL 047(448)7111(病院)
TEL 047(449)4417(健康友の会)
発行責任者 加 藤 伸 次
月一回発行 1部 50円

誰もが 孤立せず 安心して 暮らせるよう、 見守り支え合う活動、健康づくりの活動を 広げましょう！



法典地区
初見さん

友の会総会での発言を抜粋して紹介します。

①法典地区の初見さん▼
友の会の企画の参加を広がってきた教訓は、自分がされて嬉しいこと、居心地がよくてまた参加したくなること、友達が増えて会うのが楽しみになることを大切にできたことである。

②二和地区の岡本さん▼
地域の高齢化、友の会会員の高齢化は著しく、従来実施してきた企画への参加もままならない状況のもと、「居場所」を1拠点固定から、視点を変えて地域にひろげていきたい。

③大穴・三咲地区の藤島さん▼
担い手不足を解決していくために、役員会で話し合い3つの課題を確認。一つ目は「役員の担い手探し」、二つ目は参加しやすい会場選び、三つ目は地域の他団体との連携である。

内容が深められた 9人の発言



宮原院長

来賓の船橋市二和地区社会福祉協議会会長 重佳院長からは、二和病院の経営問題とあわせ全国の深刻な病院経営の実態が語られ、友の会と力をあわせて前進していく決意が述べられました。あわせて4名の研修医からも自己紹介とあいさつをいただきました。

5月24日(土)、二和健康管理センター3階にて、地区役員など80名の参加で健康友の会45回定期総会を開き、2025年度活動方針、会計決算と予算を採択し、新たな役員を選出しました。

浦卓夫会長の開会あいさつに続き登壇した宮原院長の経営問題とあわせ全国の深刻な病院経営の実態が語られ、友の会と力をあわせて前進していく決意が述べられました。あわせて4名の研修医からも自己紹介とあいさつをいただきました。

第45回 船橋二和病院 健康友の会総会開催

④八木が谷地区の畠山さん▼
役員を中心に身近なところから後継者づくりにとりくみ、役員の家族が事務局員になったり、保健大学受講者から2名の保健委員が誕生するなど、みんなで話し合い働きかけてきた。

⑤居宅介護支援事業所「かけはし」の永井さん▼
近年介護相談以外にも生活困難や引きこもり、ヤングケアラーなど問題が重なっており、重層的な支援が求められている。友の会



大穴・三咲地区
藤島さん

和地区社会福祉協議会会長 長郷様のごあいさつは、地域に住まわれている方の目線のとてもあたたかいお話で、二和病院創成期のお話とともに、地域に密着し、地域とともに育ち支えあう関係が語られました。

そのほかの来賓として、千葉県健康友の会連合会会長・秋元様、日本共産党千葉県議会議員・丸山様、ふなばし未来会議代表・江川様からそれぞれごあいさつをいただきました。

池田事務局長は、24年度の活動を振り返りながら、全会員に事前配布された25年度方針案について以

⑥二和・八木が谷地域包括支援センターの上野さん▼
最近家族親族のつながりがなく、地域で孤立し、SOSを上げることができない人が珍しくない。そうした中、地域で見守り、困りごとを聞き、必要に応じて私たちに伝えないでくださる友の会が心強く、そのつながりのおかげで早期に支援に入ることができている。



居宅介護支援事業所「かけはし」
永井さん

⑦ボランティア「たんぽぽ」の長崎さん▼
創設37年を迎え、先ごろ「緑綬褒章」を受けることができた(裏面参照)。ボランティアに参加し、患者さんや職員からのお礼の言葉が、ボランティア活動を続けていく励み、力となっている。

⑧友の会サークル「ピースフレンズ」の中村さん▼
合唱サークル活動を進めていくうえで場所の確保や参加者との時間調整、経済的負担が大変である。友の会のサークル活動への経済的支援をお願いしたい。

⑨船橋市議の神子さん▼
船橋では海老川開発による莫大な市財政の支出が問題

- 1 平和憲法を守り活かし、核兵器廃絶と平和を守る運動をすすめる
- 2 誰もが健康で安心して住み続けられるまちづくりをめざす
- 3 健康づくりを促進する活動をすすめる
- 4 社会保障の充実、改善を求め、改善をやめさせる活動をすすめる
- 5 頼りになり、信頼される病院にするための運動をすすめる
- 6 地球温暖化にストップをかけ、地球環境保全に取り組み、自然災害対策に取り組み
- 7 会員が楽しく参加できる大きな組織をめざして取り組む

2024年度 各地区、部・委員会活動 企画参加者数

企画分類名	のべ企画数		のべ参加者数	
	回	%	人	%
1 ウォーキング、散策、健康づくり、運動機能チェック	59	31.6	952	29.5
2 健康講座	18	9.6	675	20.9
3 会員・役員交流会(お楽しみ会)	15	8	355	11
4 趣味や特技を生かした作品作り交流会	25	13.4	338	10.5
5 平和活動及び学習会	7	3.7	191	5.9
6 『いつでも元気』読者会及び交流会	21	11.2	181	5.6
7 社会保障活動及び学習会	10	5.3	176	5.5
8 認知症カフェ(オレンジカフェ)	9	4.8	147	4.6
9 人材、ボランティア育成の取り組み	11	5.9	102	3.2
10 居場所づくりによる会員交流と支え合い	5	2.7	49	1.5
11 高齢者訪問活動	5	2.7	37	1.1
12 地域づくり	2	1.1	21	0.7
合 計 数	187	100.0	3,224	100.0

となっている。特に船橋市市立医療センターは、海老川移転新築を中止し、現地建て替えを含めた見直しが必要である。

2025年度役員体制

名誉会長	高橋 稔
会長	浦 卓夫
副会長	庄子 せつ子
事務局長	田中 順一
事務局次長	戸辺 健治
	池田 誠治
	楠本 優
	松村 真子
	永井 出

三三医療講座

骨盤臓器脱について

船橋二和病院産婦人科 科長 鎌田美保

船橋二和病院産婦人科では骨盤臓器脱の症状でお悩みの方（何か下がってくる感じがある、頻尿、尿もれ、便もれなど）に対して、保存治療、ウイメンズリハ、手術治療を行っています。

原因は？

「骨盤底筋」と呼ばれる臓器を支える筋肉が弱ることと起きます。妊娠・出産・加齢なども原因といわれます。慢性的に腹圧をかける状況（立ち仕事、農業、介護、肥満）なども原因となります。

症状は？

○何か下がってきている
○挟まった感じで歩きにくい
○尿や便が出しづらい
○トイレに行ってもすっきりしない
○こすれて出血がある
○膣から何か出てきている
○などの陰部の違和感、頻尿・尿漏れがある
○膣からピンポン玉のようなものが出てくるなど
このような症状を訴える方が多いです。夕方になると

骨盤臓器脱とは？

子宮・膀胱・直腸・小腸・子宮全摘後の膣などが膣の入り口からでてくる状態を骨盤臓器脱といいます。

膀胱が下がってくることが最も多いですが、膀胱と子宮がどちらも下がってくることもあります。全女性の



違和感が強くなるのも特徴ですが、進行すると1日中出て戻りにくくなります。こんな症状は骨盤臓器脱かもしれません。お気軽にご相談ください。

専門のリハビリスタッフによる外来もあります（金曜午後 完全予約、自費料金）

産婦人科 外来案内 ☎047-448-7098
午前 8:30 ~ 11:00 午後 13:30 ~ 15:00

受付	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	●	●	第2・4週 ● 第1・3・5週 予約のみ
午後	×	×	×	予約	予約	×

祝 「たんぽぽの会」 緑綬褒章受章!!

1988年以来長きにわたり活動されてきた院内ボランティア「たんぽぽの会」ですが、その活動は昨年だけでも病院内で156日のべ394人、デイケア79日のべ171人に及びます。その献身的な活動が評価され、このたび「緑綬褒章」を受章されました。おめでとうございます。



(千葉日報 2025 年 4 月 28 日)

二和病院への期待と願うこと

最後に、今後の病院に期待することを教えてください。

柏木 患者からの観点で言えば、やっぱり、職員の方の「患者さんを大事にする」という態度、態度っていうよりもっと重い感じの、見方、考え方。「船橋の患者は二和病院で引き受ける」みたいなね（笑）、大きく言えばそういう、「引き受ける」というのはものすごく広い問題、市民全体の問題として、病院自体が断固としてそういう立場に立っている、友の会もそういうようになっていくのは当然だ

二和病院建設運動にかかわった思い出

インタビュー

後編

話し手：柏木文代さん（船橋市二和東在住）
聞き手：編集部（松村真子）



うことと

「病院の理念は「患者さまの権利を尊重し、安全で納得と満足のいく医療・介護を地域とともに進めます」となっています。それを私たち（職員）が念頭に置きながら、医療活動をしていくことを柏木さんは望んでおられるという

しね。やっぱり病院の中でひとつはこれだというものを作っている、その守る力として「友の会」を考えていくというのが必要だと思います。



1981 年開院時は西側が正面玄関で、後に西側に病棟が増築されました

すね。柏木 もう、それにつきますよ。患者としては一番大事なことですからね。それを忘れないで頑張っていきたいと思えます。本日は貴重なお話をたくさん伺うことができました。これからお体

被爆80年、核兵器廃絶を願い
7月17日(木)に、平和行進を予定

を大事になさってお過ごしください。柏木 はい、こちらこそ。100歳だけど今、わりと元気ですよ。痛い痒いもないし。だから、忘れちゃうのね（笑）でもやっぱり元気だつてことが一番ね。（おわり）

連載「語り継ぐべき被爆・戦争体験」

二和病院の職員であった伊久万里さんのお母様の手記を先月号に続き掲載します。

『広島 八月六日』 川上悦子 昭和58年執筆



川上悦子さん 大正 15 年生まれ 平成 6 年没

第 2 回 〈被爆〉

八月六日朝八時、私たち家族の一日が始まりました。母は台所で洗濯、小学一年生だった弟は学校に行きました。病床にあった祖母は床の中で家の者の動きを目で追っています。

空襲のサイレンが鳴りました。私は母と廊下に出て空を見ましたが敵機は見えません。青空にくっきり細く白い糸を引いた飛行機雲が見えます。この頃、広島も敵機の来ることは珍しくありませんでした。広島は陸軍師団があり、港もあり、軍事的には重要な街だったと思います。このまま何の被害も受けずにいるとは思っていません。

その日、私は用事で瀬野まで行くことになっていました。当時、汽車に乗るのが不自由な時代です。朝早く駅に行き、長い時間人の列に並び、やっと切符を手に入れたものです。瀬野まではそんなに遠くはありませんが、帰りの切符がうまく買えるかどうか分かりません。たとえ少しでも食べ物を持たないでは遠出が出来ないのです。配給の大豆を食事代わりに持ちました。

玄関に立った時です。「こんな明るい時…照明弾だろうか」一瞬そう思いましたが、すぐドンと鈍い大きな地をえぐるような音がしました。生ぬるい風が吹いて玄関の格子戸がピュンと音を立て、みる間に弓なりになって外に飛びました。爆風にしては家の揺れが酷く、窓ガラスが壊れ、壁が白

い煙を吹いて崩れます。天井がメリメリ音を立てて落ちてきました。目の前が真っ暗になり、あとは分かりませんが足元をすくわれたようでした。気がついた時は頭の上に重いものが一杯かぶさって身動きできないのです。何がどうなったのか、自分がどうしているのか、一瞬ぼんやりしてしまいました。

この頃、敵機の襲来に備えてどここの家も床下に大きな穴を掘り、防空壕にしていました。私はその穴に落ちたのです。幾重にも折り重なった板や壁土、瓦に埋もれていました。僅かに光が見えます。地面に這い出するまでのかなりの時間がかかったのか分かりませんが、やっと外に這い出ることが出来ました。家が傾き、半分つぶれていました。道路に面した玄関が崩れていました。

やっとの思いで外に這い出したところへ後ろから声をかけられました。「姉さん助けて」と…、振り向くと近所の奥さんの頭が10cm位ポツカリ割れ、血で顔が赤くなっています。私はびっくりして声も出ませんでした。二軒おいた隣が派出所でしたので、とっさに「そこに行ってください」と、言いました。その奥さんはヨロヨロと歩いていきました。私が呆然と立っていると母が窓から這い出てきましたが、母の顔も血が流れています。頬にガラスが刺さっているのです。

(つづく)